

維持管理計画書

1. 主要施設の維持管理

(1) 貯留構造物

貯留構造物が機能を損なわないために、次のような管理を行う。

① 廃棄物の確認

廃棄物の種類、形状、日埋立処分量等を確認（データ確認、目視等）する。

② 貯留構造物の変位等の確認

水平変位、鉛直変位（沈下）、外観形状（傾斜、ひび割れ）を月毎に1回確認する。

(2) しゃ水工

埋立の前、作業中、後において、次のような管理を行う。

① 埋立開始前

目視による定期的な点検を行う。

② 埋立作業中

しゃ水工付近での廃棄物性状及び重機の走行に留意する。

③ 埋立後

モニタリング井の水質分析

漏水検知システムによる定期的な確認をする。

(3) 雨水集排水施設

① 集排水管等の管理

水路の勾配、沈下等の定期的な観測および降雨時等の流況を確認する。

土砂および落葉等の堆積物を確認する。

局所的な沈下等による柵と水路の接続部を確認する。

(4) 浸出水集排水施設

① 集排水管

塹型集排水管の管内水位及び流況を確認する。

② 原水ピット

浸出水量の経時的変化の観測と、降雨記録との対比による集水機能を確認する。

浸出水の分析による管内土砂堆積状況の予測、埋立層分解状況を推測する。

ポンプ送水能力を確認する。

(5) 浸出水処理施設

埋立時期別、季節別、処理工程別に整理すると次のとおりである。

①埋立時期別

埋立初期には、埋立地内保護土に含まれるシルト分が多く流入することがあるため、原水ピットの排砂を適切に行う。また、初期は有機物濃度が比較的高いと思われるため特に生物処理工程に留意する。

埋立中期、後期は浸出水の水質は比較的安定するが、生物難分解性物質が増加するため特に凝集沈殿処理工程での適正管理に留意する。

②季節別

冬期間は、凍結に注意し水温調整を行い、生物処理工程での低負荷運転に対応する。

③処理工程別

生物処理工程（回転円板法）では、円板体の変形、破損、付着物、及び円板表面の生物膜等を観察し、異常の有無を確認する。

凝集反応に最適な pH を確保し、反応時間、攪拌速度を適正にする。また、薬品添加量を適正にする。

(6) 発生ガス処理施設

発生ガスの状況や地盤の沈下状況から廃棄物層の安定化状況を把握する目安とする。

2. 管理施設の維持管理

(1) 搬入管理設備

搬入管理設備は、施設に搬入されるごみが受入れ基準に合致しているかの確認と計量・記録等の管理を行う。

○最終処分場へ搬入する埋立物の管理

最終処分場への受入れ基準に合致しているかどうかの判定は、搬入時の管理人による外観検査が中心となる。

管理棟横に設置されている計量設備により、搬入車に積載した内容物の確認等、適正な管理を行う。

搬入管理はできるだけ自動化し、計量後、伝票（年月日、業者名、車種、品種、重量等）の発行及び集計（日報、月報等）ができるものを使用する。

搬入管理設備となるトラックスケールは、ごみを積載したままで車両の重量を計測する機能を有しており、車両が載る本体部と計測重量を指示・記録する計量部から構成されている。トラックスケールはロードセル（4点支持）方式を採用する。

(2) 管理棟設備

管理設備は、既設水処理施設に併設されている管理棟を用いる。

(3) モニタリング設備

最終処分場を適切に管理するため、搬入ごみ、埋立状況、しゃ水工の安全性、浸出水、地下水、発生ガス、悪臭についてモニタリングを必要に応じて行う。

モニタリング方法と設備は、下表のとおりである。

表 モニタリング計画

項 目	目 的	方 法	設 備
搬入ごみ	最終処分場への受入基準に適合しているか確認する。	管理人による荷台の目視、抜き取り検査を行う。	・搬入管理設備
埋立状況	安全・衛生を保持し、埋立地の安定化状況を確認する。	管理人による状況監視、測定を行う。	
しゃ水工の安全性	しゃ水工が機能し、浸出水が漏れていないか確認する。	漏水検知システムによる定期的な確認を行う。	・漏水検知システム
浸出水	浸出水が排水基準を満足しているか確認する。	施設の適正管理及び定期的な放流水質試験を行う。	・計装設備 ・水質分析機器
地下水	地下水の汚染が生じていないか確認する。	定期的に地下水の水質検査を行う。	・モニタリング井戸
発生ガス	ガスの発生状況から有機物の分解状態を確認する。	ガス抜き管開口部より、ガス温度、組成等の検査を行う。	・ガス抜き管
悪臭	悪臭が発生していないか確認する。	定期的に機器分析あるいは官能試験を実施する。	—————

3. 関連施設の維持管理

(1) 飛散防止設備

本埋立地周囲の山林が緩衝帯となっており、また、埋立に際しては、ごみの飛散を防止するために、適正な覆土等をすみやかに実施する。

(2) 立札、門、囲障設備

施設への搬入路に立札を設ける。なお、門については、現在設置されている門を使用する。

漏水発見時の対応について

本最終処分場は、埋立地の安全な維持管理を行う目的で漏水検知システムを採用する計画です。漏水検知システムは多数の検知器及びブロック分けにより、漏水位置を的確に把握することができ、迅速な対応が可能です。万が一漏水が発見された場合は、以下の対応策を行い速やかに埋立地の安全性を確保します。

対 応 策

漏水発見時は、ごみ層を掘削し漏水部を目視で確認した上、遮断層の修復を行います。また、漏水原因を追究し今後同じ破損が生じないよう対策を講じます。